



元気っ子

N o 339 ながさわ保育園

園 長 中 瀬 弦 偉

1日(土)の運動会では、日々お仕事でお疲れのところ、また遠方からご参加頂きましたおじいさんおばあさん、誠にありがとうございました。子どもたちも活き活きしながら、楽しめていたのではないかと思います。また、競技プログラムも、全体を通して0歳児から5歳児の発達の連続性や月齢による発達の違いなどがとても見やすく構成されていたように思います。次年度以降も更なる改良を目指して頑張っていきたいと思います。

保育所保育指針にもあちこちで見られる「環境を通す」という言葉ですが、分かるようで分かりにくいこの言葉の意味について今回はお話をしていこうと思います。

子ども（赤ちゃん）は生まれながらにして「主体的」であることは様々な場面で誰もが感じるところかと思います。また、近年の研究から子どもの「白紙論」が否定され、子どもは生まれながらにして「有能」であることが証明されています。このことから、子どもにアレコレ指示を出して「出来るようにさせていく」育児は逆に「子どもが自ら能力を引き出す」ことをしなくなり、主体性を失っていくと言われています。一度主体性を失った子どもが主体的になるためには大変な時間と労力がかかります。

このことを踏まえて、「環境を通す」ことの意味をお伝えしたいと思います。例えば、分かりやすい場面で言えば、「ほら、挨拶しないとダメでしょ」と都度子どもに教える場面です。恐らく親の前など短期的には挨拶ができるようになるかもしれませんが、「言われて挨拶してきた」ので主体的ではありませんし、長期的にはどうでしょうか。

では、別の場面です。身近にいる大人がいつも積極的に笑顔で挨拶をしていて、その姿を見ながら育つ場面です。子どもは「そういうものだ」と当たり前のようにして学ぶので、大人になってからも笑顔で挨拶をするようになるでしょう。「笑顔で挨拶をする大人がいつも近くにいる」という環境を通して子どもが挨拶を学ぶのです。

これは「人的環境」を通して学ぶ場面ですが、整理整頓が行き届いた環境で過ごすことで、身辺整理が身につくのは「空間的環境」を通して学ぶ場面と言えます。また、綺麗な食器で食べること、清潔な洋服で過ごすことで、美的感覚や清潔さが身につくのは「物的環境」を通して学ぶ場面と言えます。

保育園においては、その時期に必要な発達が遂げられるように環境を作っています。例えば、2歳児クラスでは「同僚性」が育まれる時期なので、丸いテーブルや丸いカーペットで輪になって遊ぶことを通して人とのやりとりが増えるように「環境」を作っています。また以上児クラスのピーステーブルやセミバイキング、御堂参拝といった取り組み（環境）は「自分の想いを言葉で人に伝えることや人の話に耳を傾ける」ことを学ぶための「環境」です。その他にも様々な狙いをもって環境構成を行っていますが、これらのことはご家庭でも十分実践できることかと思っています。

まずは子どもがどのように育って欲しいか、そのビジョンをイメージして、それを育てあげるためには、言葉でそのことを伝えて「やらせる」のではなく、まずは「環境」を整えてみてください。きっと子どもがその環境を通して育つ姿が目に見えて遅く、その子の持って生まれた能力に感動されることかと思います。